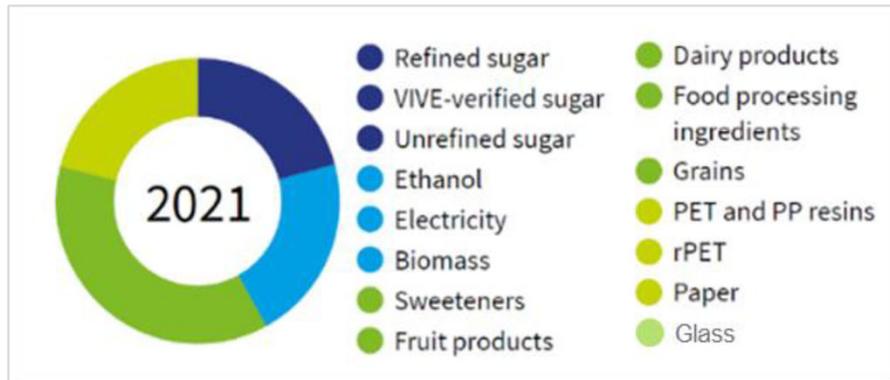




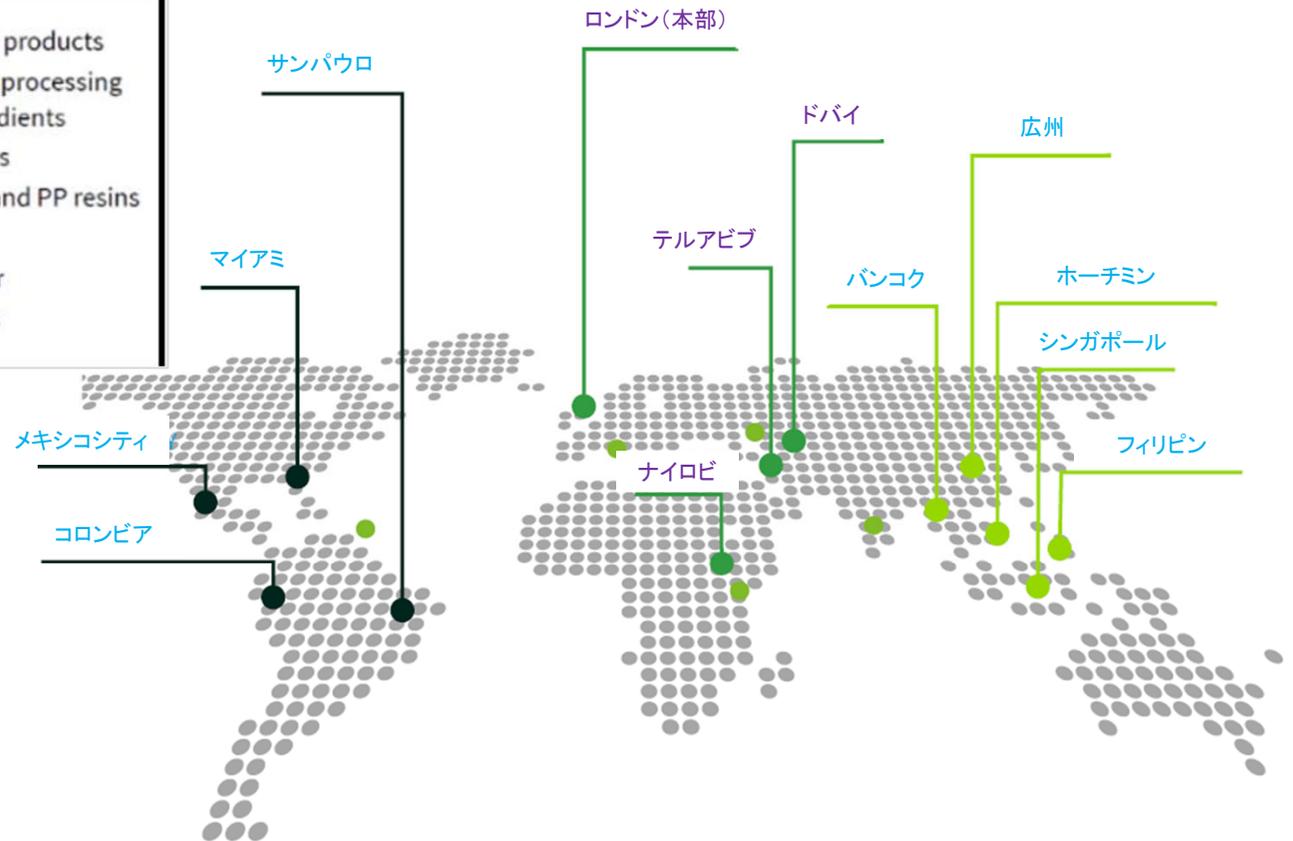
VIVEのご紹介



Czarnikow: 効果的なサプライチェーンの解決策



- > 650 世界の顧客数
- 16 グローバル拠点数
- 14 プロダクト取扱数
- > 7.9 百万t の貿易量
- 300 人の従業員



サプライチェーン全体にわたる強固な関係



生産者



一次加工業者



二次加工業者



物流パートナー



貿易業者



エンドユーザー



金融パートナー



VIVEのパートナー



はじめに: 農業生産者のための単一ソリューション

VIVEプログラムは、商品サプライチェーンにおける持続可能性の継続的改善プログラムとして世界的に認知されており、生産者からエンドユーザーまで、持続可能性に関わるすべての業務と活動を対象としています。

VIVEは認証基準ではありませんが、本プログラムはさまざまな認証プログラム、グローバルスタンダード、産業バイヤーの基準にベンチマークされています。

VIVEモジュール

農場



施設



(ミル)

荷主



施設



(製油所)

生産物流管理



エネルギー



紹介: VIVEの柱

ガバナンス ・方針

- 商習慣
- 手続きと記録
- ビジネスの誠実さ
- ステイクホルダー・エンゲージメント
- 農家との契約
- 経済的実行可能性

会社施設

- 職場における健康
- 衛生
- 危険物
- 安全
- PPE
- 事故防止
- 火災と緊急事態
- 応急手当

作物

- 農家の研修
- 品種選定
- 作物栽培
- IPM
- 収穫
- 汚染物質
- 農場効率性

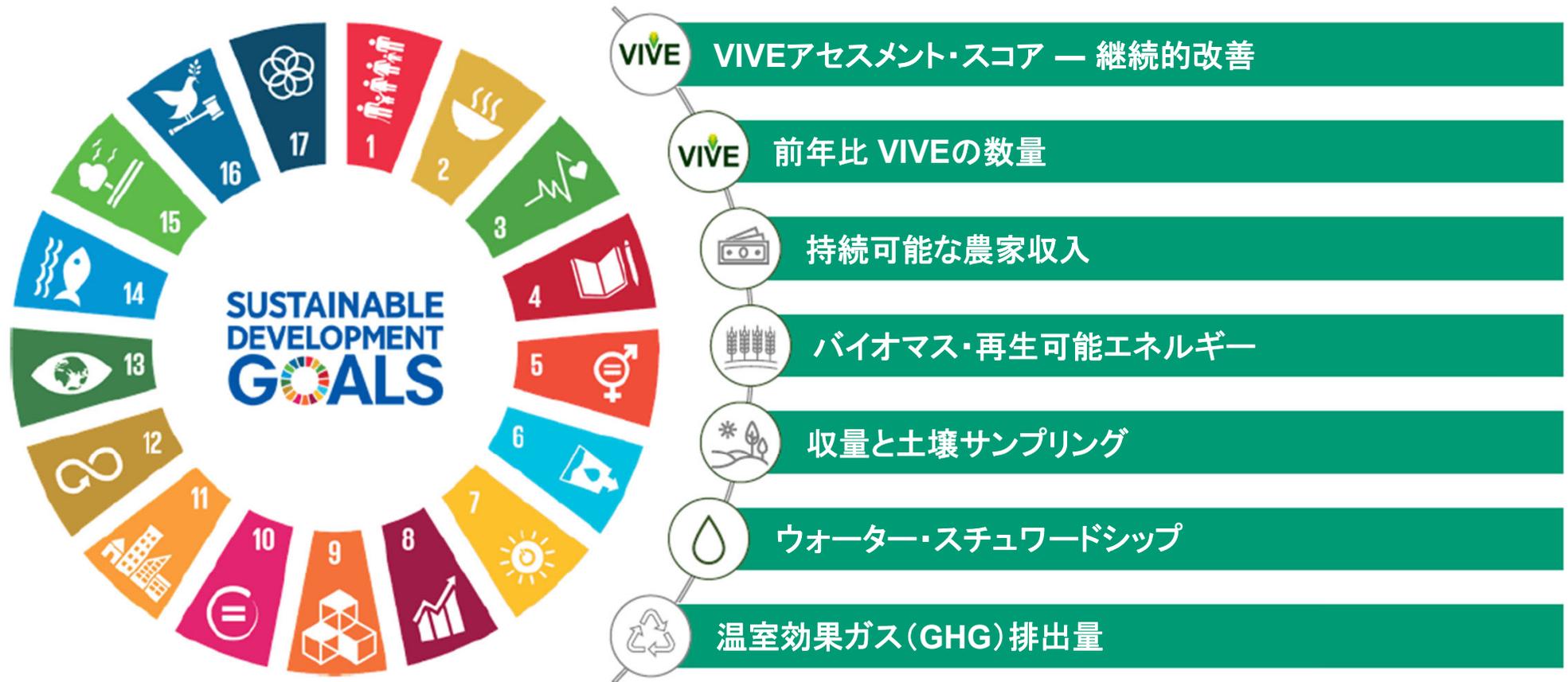
人材

- 雇用条件
- 労働法典および条約
- 福利厚生プログラム
- 地域社会と土地の使用権
- 農家の研修
- 児童労働
- 強制労働
- 安全な労働環境
- 農薬の安全な使用

環境

- 排出物と廃棄物
- 燃料・化学品の貯蔵
- 温室効果ガス削減
- 廃棄物削減
- 天然資源
- 水と土壌の管理
- 公害
- 生物多様性
- 新規農地

測定可能な影響の提供

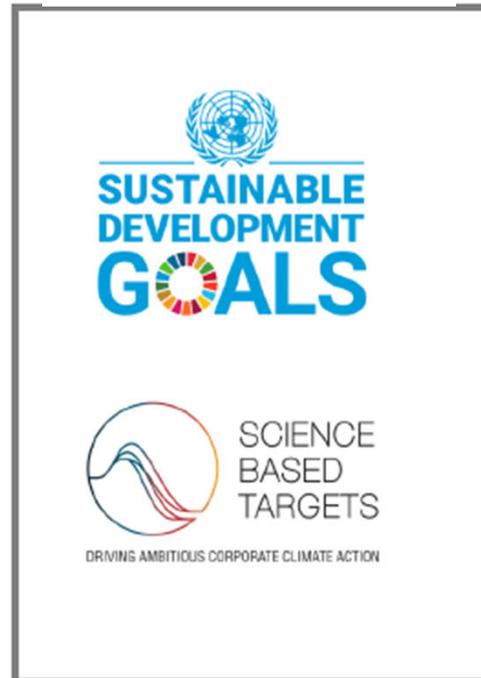


VIVEのファンダメンタルズ

第三者機関の検証



影響度測定



ベンチマーク



グリーンファイナンス



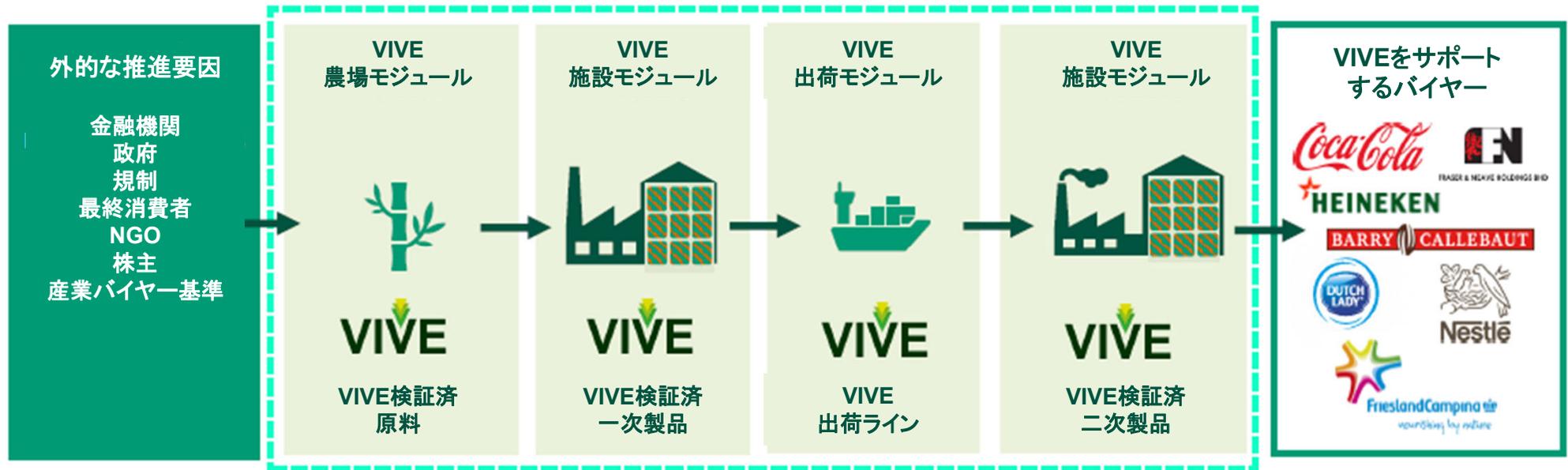
イノベーション：業界主導の包括的プログラム

複数の持続可能性要件を1つの包括的な業界主導の継続的改善プログラムに統合



チャンス：単一ソリューションで複数の利害関係者に対応

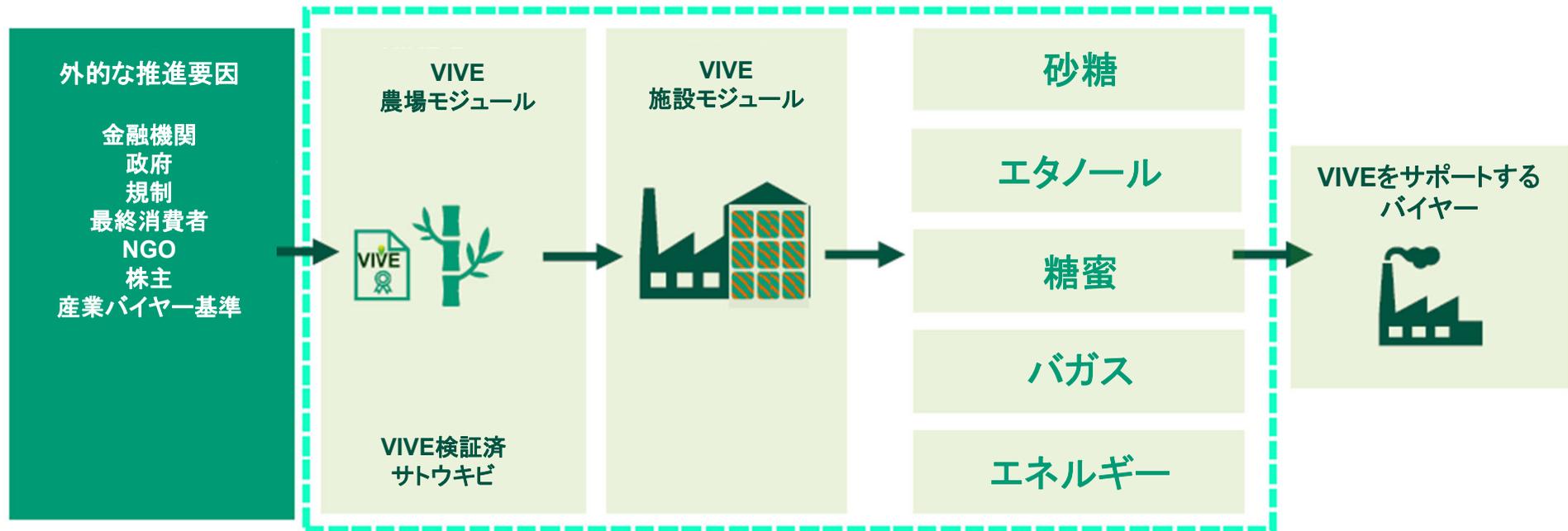
製品の持続可能性検証の要求と継続的改善



商業的実行可能性を高め、発展させるためのサプライチェーン全体の連携

チャンス：単一ソリューションで複数の製品に対応

製品の持続可能性検証の要求と継続的改善



商業的実行可能性を高め、発展させるためのサプライチェーン全体の連携

メリット: 持続可能な開発計画に商業戦略を組み込む

市場シェアの拡大

産業用バイヤーへの市場シェアの獲得と維持

商業戦略

すべてのステークホルダーと協調し、コスト分担と持続可能な製品の提供について協力するため、単一の基準を使用

長期的パートナーシップ

多くのステークホルダーと長期的なビジネス関係を構築する能力



気候変動対策

GHG排出量に関する定量化可能なデータと削減量を提供する能力 — 長期的なプロジェクトの創出とバイヤーとの関わり(2050年)

グリーンファンディング

貿易およびプロジェクトファイナンスの両面でグリーン・ファンディングを利用する能力

新規市場への参入

規制市場への持続可能な商品のクレジット販売による収益創出

業界に関する見識

他の持続可能性基準に対するパフォーマンスベンチマークへのアクセスが可能

評価プロセス：3年サイクル

VIVEアセスメントは、スペイン語、タイ語、ポルトガル語でも実施可能。



自己評価: データ入力を容易にする柔軟なオンラインシステム



第三者評価: 自己評価データを検証するための第三者によるオンサイト評価



評価レポート: 明確なレポート、分析、オーダーメイドのアクションプラン



ベンチマーク・レポート: ベンチマーク・プログラムに対するパフォーマンスを強調



改善計画: 即時の変化を実現する短期的な是正措置計画と、経年的な改善を推進するオーダーメイドの改善計画の組み合わせ



フォローアップ: 専門チームが、サイクル全体を通じて取り組みをサポート

特典: 100社以上のバイヤーがVIVEをサポート

VIVEは多国籍企業から強い支持を得ており、その多くが持続可能な原材料の購入を約束



アラインメント: VIVEベンチマークを通じたSAIシルバーとの連携

SAIプラットフォーム会員(正会員および賛助会員)



Q & A



【WG委員からVIVEへのコメントと質問】		
モジュールとページ	コメントと質問	回答
マニュアル p.4	VIVEはsustainability programmeであるが certification standardではないと書かれています。違いを説明いただけますか？	認証(Certification)は、事前に定義された持続可能性基準への準拠を確認することに重点を置き、検証(Verification)は持続可能性の主張の正確性と信頼性を保証する。VIVEは、持続可能性基準のニーズが変化した場合にも適応可能であることに重点を置いており、本プログラムでは、プログラムの基準がエンドバイヤーのニーズに確実に合致するよう、基準を迅速に適応させることが可能である。サステナビリティのリスクは常に変化しているため、基準も適応する必要がある。すべてのVIVE評価は第三者によって検証されており、VIVE基準は非常に確固としたものである。
マニュアル p.4	プログラム実施後のレポートは、各生産者がある基準を満たしたことを示すというよりも、現状を記録し、改善の方向性を示して追跡するとあります。どのようなレポートが提出されることになるのか、サンプルを見せて頂くことは可能でしょうか？	VIVE報告書のサンプルは提供可能である。参加者には、発見事項と改善の余地がある点についての詳細な報告書が発行されるが、同時に、彼らのスコアと販売可能なVIVE製品の量を示す簡単な証明書も発行される。
マニュアル p.7	基準書(Principles&Criteria)はどのように策定されますか？マルチステークホルダーのような形で議論されるのでしょうか？それともここでのAuthorという方がそれぞれ専門家の立場で改定しているという理解でしょうか？	VIVEは、農産物に依存する世界の産業内で実施されている各種プログラムの幅広い経験に基づき開発されたもので、国連の各機関が定める国際的に認知された持続可能性と人権の原則を考慮している。VIVEは、SAI Farm Assessment Tool、Proterra、SmartcaneBMP、産業バイヤーの各種基準など、他の持続可能性イニシアティブに対するベンチマークとなる「包括的」プログラムとして機能する。VIVE基準は、VIVEのパートナーであるIntellynciによって毎年見直され、ベストプラクティスや規制の変更に基づいて更新される。このような変更が行われた場合、プログラムはグローバル・スタンダードに合わせて再ベンチマークされる。

【WG委員からVIVEへのコメントと質問】		
モジュールとページ	コメントと質問	回答
マニュアル p.20	アセスメントは、全企業に対して行われるのでしょうか、それともサンプリングで選ばれた企業にのみ行われるのでしょうか。その場合はサンプル数がどのように設定されるかお知らせください。	VIVEの最終的な目標は、VIVE参加製粉所・工場で加工されるすべての作物、生産されるすべての製品がVIVEに組み込まれることである。この目標が達成されるまで、VIVEはVIVEサプライチェーンを網羅するマスバランス・システムを運用する。VIVEマスバランスの運用の仕組みは、各VIVEモジュールのガイドに詳しく記載されている。検証のために評価される供給農場は、小規模自作農場、協同組合農場、工場所有農場など、さまざまな属性から毎年無作為に選ばれる。
マニュアル p.31	RSPO認証などは、認証取得企業の情報等がウェブページで公開されますが、VIVEではどのような情報公開のしくみをお持ちでしょうか	VIVEは民間のプログラムだが、最新の評価基準はすべてVIVEのウェブサイトで公表されている。現時点では、個々の参加者の評価レポートやスコアは開示していない。
マニュアル p.32	問題があることが発覚した場合の情報は公開されますか？	参加者の同意なしに情報が公開されることはない。

【WG委員からVIVEへのコメントと質問】		
モジュールとページ	コメントと質問	回答
施設モジュール p.56	Fac4.12&13: GHG削減計画を実行すべき(should)とする規定は弱く、FIT制度と適合しない可能性がある。一方で、日本のFIT制度はGHG削減基準の適応が始まっており、日本向けVIVE基準などとして、満たすべき削減率を明記することは可能か。	VIVEプログラムは検証基準であるため、基準には参加者が従うべき(should)実践の概要が示され、それらに向けた参加者の進捗が評価される。基準を満たさない場合、プログラムを継続するために、参加者は継続的改善計画を実施しなければならない(MUST)。
その他	認証における第三者性の担保について、これまでに査定を行った第三者の事例を示していただきたい。	私たちは通常、Control Union、SGS、SCS、Partner AfricaをVIVE評価の実施に利用している。ただし、必要に応じて他の機関を利用することも可能である。すべての監査人はVIVEに関する詳細なトレーニングを受けている。評価者の資格とトレーニングのガイダンス(Assessor Qualifications & Training guidance)は、VIVEプログラムマニュアルF5.1に記載されている。
その他	政府や公共機関などでVIVEを利用している例はありますか？	VIVEは産業バイヤー、生産者、業界団体に利用されている。
その他	当該プログラムにおいて、第三者性の担保という視点での評価を行っていないのか、他の方法があるのか、また評価を行わない理由等について、ご説明いただければと思います。	本プログラムの構成と基準について言及するならば、本プログラムは、ベンチマーク・プロセス中に他の業界基準と比較して独自に評価される。また、本プログラムは、受入プロセスを開始するためにISEALと連携している。

ありがとうございました

